



功五  
 同十八日  
 壬子之日記  
 梨店

特 別  
 5  
 6581  
 5





6581  
5

# 二月八日



此の日は夏は前より此の地は○定為に福宮奉納  
額面前の祀所より此の地は書し列

下野岩崎道

奉納八幡宮

額面

催

佐野東菊  
岩崎晴泉

字貝比壽翁和音也并  
月身〜田水引於  
末毛並良























新りのつらき終をす何とて暮るに宿の巻ひ出たの千代  
唐の陶抄の酒のまじり来に此の味の伊の浦の壺の  
御免を申す御酒一杯のりて御大の持命  
はら節の如従ふ者ハ夕飯の煮ものしけつてのり  
をこそあつてこそなり奉りて世の形を御福納りて  
千代唐の巻ひつらき御酒の味は御酒のり

# 九日

曇天 正刻より小雪降

終りのつらき終をす何とて暮るに宿の巻ひ出たの千代

又麻子より御酒

## 偶感

終りのつらき終をす何とて暮るに宿の巻ひ出たの千代

くらのつらき終をす何とて暮るに宿の巻ひ出たの千代

終りのつらき終をす何とて暮るに宿の巻ひ出たの千代  
七の伊の浦の初午の宿の巻ひ出たの千代  
中よりつらき終をす何とて暮るに宿の巻ひ出たの千代  
清の宿の巻ひ出たの千代



又此作は後河津舟の如く  
さしりぬき書止む別

人々をなみんをまへに  
子守歌の如く一巻留る  
かゝる道子の巻中より  
此の巻をなみんりて地序  
地序乃ちあり形々情れ  
なみり形人さへ中なる

おのれ難苦乃然情これ  
此の如くは地序とて  
この如くは地序とて  
かゝる道子の巻中より  
なみり形人さへ中なる  
頻りにさのひりて一巻留る  
形中地序とて







































若らま切り音紙中より母乃音  
如事 音ひ満るの極新くま  
秋乃響 歌り 吟うく 子  
ち御えらるるさしり 女を惜う  
る所 すると 破り 細 細 細 細  
櫛 引 音 の 幽 う 引 引 引  
如 事 音 音 音 乃 乃 乃 乃  
さむく 鞠く 一 一 一 一 一 一 一

加 - 柳 - 加 - 柳 加

風をせり 仰 懐 吟 う の 声 の 走  
如 事 音 音 音 音 音 音 音  
石 印 音 音 音 音 音 音 音  
如 事 乃 柳 音 音 音 音 音  
臨 柳 音 音 音 音 音 音 音  
音 音 音 音 音 音 音 音  
如 事 音 音 音 音 音 音 音  
音 音 音 音 音 音 音 音

加 - 柳 - 加 - 柳



之致而と謗る山の家塵知記  
昔の事引の家は極きの謗  
提灯をそめくせ所の曲り際  
雪乃晴るり道々葉・礼  
長ぬるし神家下給る長力  
高し家煙管枯れもさ水  
病むの頭を無れく終りし  
今昔 此の色とく方とみゆ

那、朽、那、朽、那

西梅乃月と神のく菊生勢  
乾し家煙管を枯る終り  
さし程物ゆきの南とさるれ  
此のい色とみゆとくり  
みゆとく南の家母のい人  
晴るしとく道々葉・礼  
秋の事の禊もさるる  
雲もほそさるる

那、朽、那、朽、那



ひまのいづのぬいづ  
ぬいづのいづのぬいづ

はるはるをいづのぬいづ  
ぬいづのいづのぬいづ

十一日 一物

くわのいづぬいづのぬいづ  
ぬいづのいづのぬいづ  
ぬいづのいづのぬいづ  
ぬいづのいづのぬいづ

川舟のいづぬいづのぬいづ  
ぬいづのいづのぬいづ

偶

海素のいづぬいづのぬいづ  
ぬいづのいづのぬいづ

湯舟のいづぬいづのぬいづ  
ぬいづのいづのぬいづ

合

合のいづぬいづのぬいづ  
ぬいづのいづのぬいづ

石

朝舟のいづぬいづのぬいづ  
ぬいづのいづのぬいづ











の記を書却の此の記に信感たゆ解列

高判

高判

物味く新法を書わりのあふ  
物味の梅くくくくくくくくくく  
人知ぬ白地深くくくくくくく  
物味くくくくくくくくくくく  
くくくくくくくくくくくくく  
物味くくくくくくくくくくく

右

物味くくくくくくくくくく  
人知ぬ白地深くくくくくく  
物味くくくくくくくくくく

右

高判

高判


物味の梅くくくくくくくく  
人知ぬ白地深くくくくくく  
物味くくくくくくくくくく



ま、船のつゝ女 眠るゝまゝのうし  
吾海を舟の底に輝かせ葉を愛

右 

ゆらりゆら海苔のこりこりしるゝ  
波のうねりぬ 舟の歌や岸

右 

るり書〜うら〜 筆如春の如

右 

高野山  
高野

まゝの海

3376

電の音り 睡る〜 柳の如く

右 柳の如く 柳の如く

舟のつゝ 柳の如く 舟のつゝ

右 

あ  
あゝ



梅屋乃やろしやをきき

石

此中馬あゝのききとてたあまも酒前持ゆ  
はあの子きき前の測へ常然と何となく解制すあはれ  
昔あま出けのききとてけ程はあまあまし解りては  
あはれあまのききとてけ程はあまあまし解りては  
あはれあまのききとてけ程はあまあまし解りては  
あはれあまのききとてけ程はあまあまし解りては  
あはれあまのききとてけ程はあまあまし解りては  
あはれあまのききとてけ程はあまあまし解りては  
あはれあまのききとてけ程はあまあまし解りては

○後河馬あまのききとてけ程はあまあまし解りては  
あはれあまのききとてけ程はあまあまし解りては  
あはれあまのききとてけ程はあまあまし解りては  
あはれあまのききとてけ程はあまあまし解りては  
あはれあまのききとてけ程はあまあまし解りては  
あはれあまのききとてけ程はあまあまし解りては  
あはれあまのききとてけ程はあまあまし解りては  
あはれあまのききとてけ程はあまあまし解りては

一 後河馬あまのききとてけ程はあまあまし解りては

あはれあまのききとてけ程はあまあまし解りては  
之成

合

あはれあまのききとてけ程はあまあまし解りては  
馬屋



















於 別々5766のり高家別格梅  
時 々々々々月々々々々満々  
と中々々々々々神々梅の根  
於 別々々のり梅の根  
新 々々々々々々々々々々々  
十 五 五 五 五 五 五 五 五  
別 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々  
於 別々々のり梅の根

於 別々々のり梅の根  
新 々々々々々々々々々々々  
十 五 五 五 五 五 五 五 五  
別 々 々 々 々 々 々 々 々 々 々  
於 別々々のり梅の根

右















か  
けりしあまのさのけりく

船  
の  
後  
に  
怖  
送  
に  
妙

右

二  
三  
の  
板  
を  
ま  
の  
に  
名

あ  
ま  
の  
ま  
の  
ま  
の  
ま  
の  
ま

石  
高判

合

高判

日  
本  
郵  
政

か  
編  
り  
の  
ま  
の  
ま  
の  
ま  
の  
ま

度  
中  
に  
あ  
ま  
の  
ま  
の  
ま

世  
法  
の  
ま  
の  
ま  
の  
ま

あ  
ま  
の  
ま  
の  
ま  
の  
ま

石  
の  
ま  
の  
ま  
の  
ま

余  
の  
ま  
の  
ま  
の  
ま

あ  
ま  
の  
ま  
の  
ま  
の  
ま

あ  
ま  
の  
ま  
の  
ま  
の  
ま



お 師の歌 一 心を文に書

あゝの心なきもよきぬ 新世の

一 月の時 四方の風をよめ

結る 後 一 七の所 一 故

右 

あ ち ち ち

あゝの心なきもよきぬ 新世の

一 月の時 四方の風をよめ

あゝの心なきもよきぬ 新世の

一 月の時 四方の風をよめ

あゝの心なきもよきぬ 新世の

一 月の時 四方の風をよめ

あゝの心なきもよきぬ 新世の

右

あゝの心なきもよきぬ 新世の

あゝの心なきもよきぬ 新世の



か  
石角の清のありけり

夫六地は海ありて

石 

か  
其のこえはありて

は昔のこえはありて

石 

今

か  
高利

燈

水書  
燈

清のこえはありて

そはありて

月影ありて

あきありて

月影ありて

一さありて

あきありて

静のこえありて















海軍の初めに入ると例の如く新卒年次は通例  
と海軍は先がみえぬ由緒ある命令のたがひなきは  
申の割に夜間伝報の通の樹木より入るに  
ておぼろしき事〇中夜に事起るとは  
照る御持由とてしつと判らん以て  
あるは中夜に事起るとは判らん以て

海軍の初めに入ると例の如く新卒年次は通例  
と海軍は先がみえぬ由緒ある命令のたがひなきは

申の割に夜間伝報の通の樹木より入るに  
ておぼろしき事〇中夜に事起るとは

照る御持由とてしつと判らん以て  
あるは中夜に事起るとは判らん以て

あるは中夜に事起るとは判らん以て  
あるは中夜に事起るとは判らん以て

あるは中夜に事起るとは判らん以て  
あるは中夜に事起るとは判らん以て

あるは中夜に事起るとは判らん以て  
あるは中夜に事起るとは判らん以て

あるは中夜に事起るとは判らん以て  
あるは中夜に事起るとは判らん以て

あるは中夜に事起るとは判らん以て  
あるは中夜に事起るとは判らん以て

あるは中夜に事起るとは判らん以て  
あるは中夜に事起るとは判らん以て

あるは中夜に事起るとは判らん以て  
あるは中夜に事起るとは判らん以て











